

2020年8月4日

眼科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

研究課題名 当科における滲出型加齢黄斑変性症に対する抗 VEGF 治療の実態調査

研究責任者 市立札幌病院 眼科医長 木下貴正

研究の目的

滲出型加齢黄斑変性（以下、本疾患）は高齢者の視力低下の主な原因疾患の一つであり、黄斑（視力にとって最も重要な網膜の中心部分）に異常な血管（新生血管）が生じることで出血したり、水がたまって視力が低下します。本疾患には血管内皮増殖因子（VEGF）という物質が深く関係していることが知られており、治療法としてはこの VEGF を抑える薬剤を眼に注射する方法（抗 VEGF 治療）が標準治療となっています。抗 VEGF 治療は視力の維持に非常に有用であることが証明されていますが、薬剤が高価であり、繰り返しの治療および通院が必要であることが問題の一つになっています。このため、患者さんの経済的、身体的負担を軽減するための投与方法の確立が求められています。今回、当科での抗 VEGF 治療の実態を調べることで、現状を把握し、改善点を模索することを目的として研究を行います。

1 対象となる患者さん

2013年1月から2019年6月までに本疾患に対して抗 VEGF 治療を開始し、12か月以上、通院された方

2 利用するカルテ情報

年齢、性別、視力、病型、使用薬剤、治療回数、最終受診時の治療間隔、画像（眼底写真、光干渉断層計、蛍光眼底撮影）などを調査します。

個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目
市立札幌病院眼科